

第5章

特別支援学校における環境教育

第1節 ねらい、視点

特別支援学校における環境教育のねらい、視点は、前述の小学校、中学校、高等学校における環境教育のねらいや視点到準する。しかし、特別支援学校においては児童生徒一人一人の障がいの状態や特性等を十分に考慮する必要がある。

したがって、児童生徒の実態を把握し、その実態に応じた学習のねらいや学習内容、指導計画を立てて環境教育に取り組む必要がある。

また、学校のある地域の実態を踏まえ、地域における自然や文化、社会等に直接関わるような体験活動を通して理解を深めることが重要である。

第2節 展開方法、各学年・各教科の特徴

1 小・中学校、高等学校に準ずる教育課程における指導

前述の小・中学校、高等学校における展開方法、各学年・各教科の特徴に準じて指導する。

2 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校における指導

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、知的障がいの特徴及び学習上の特性等を踏まえ、児童生徒が自立し社会参加するために必要な知識や技能、態度などを身に付けることを重視し、知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標及び内容が特別支援学校学習指導要領に示されている。

各教科の内容は各学年別ではなく、小学部は3段階、中学部は1段階、高等部は2段階で示されている。これは同一学年であっても、知的障がいの状態や経験等が様々で個人差が大きいため、段階で示した方が個々の児童生徒の実態等に即し、各教科の内容を選択して指導しやすいからである。

このことを踏まえ、環境教育においても、知的発達、身体発育、運動発達、生活経験、社会性、職業能力等の状態を考慮して目標や内容を定めていく必要がある。

また、知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標として、以

下のようなことが示されている。

【生活科】

「生活科」の目標

日常生活の基本的な習慣を身に付け、集団生活への参加に必要な態度や技能を養うとともに、自分と身近な社会や自然とのかかわりについて関心を深め、自立的な生活をするための基礎的能力と態度を育てる。

生活科の目標には、「自分と身近な社会や自然とのかかわりについて関心を深め」とあり、児童が、家庭や学校の近隣の地域など身近な社会に関心をもち、様々な人々とかかわったり、公共施設等を利用したりすることや、学校の近隣や登下校時に見られる動植物や河川などの自然、太陽や月などの天体、気候、季節の変化などに気付き、興味をもち関心を深めることをねらいとしている。指導にあたっては、自然や動物、植物、太陽や星などの天体、四季の変化などに実際に触れることができるような内容を設定することが考えられる。

【理 科】

「理科」の目標

(中学部)

日常生活に関係の深い自然の仕組みや働きなどに関する初歩的な事柄についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養うとともに、自然を大切にする態度を育てる。

(高等部)

自然の仕組みや働きなどについての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うとともに、自然を大切にする態度を育てる。

理科の目標には、「自然を大切にする態度を育てる。」とあり、自然環境や動植物を大切にしようとする心情と実践的な態度を育て、自然の仕組みや働きなどを大切にする行動ができることをねらいとしている。指導にあたっては、日常生活との関連性を重視し、適切な時期や場所を選択し、単なる知識の習得を目指すのではなく、環境保全に役立つことを念頭に置き、具体的な活動場面で指導することが大切である。また、高等部段階では地球の温暖化や自然環境破壊などの問題を取り上げることも考えられる。

このように、知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科でも、環境に関連する目標や内容が示されているが、環境教育は一部の教科だけで行うのではなく、各教科等で関連させながら教育活動全体で取り組んでいくことが重要である。

また、知的障がいのある児童生徒の特性等を踏まえ、各教科等を合わせて指導を行う中で環境に関連する学習を取り扱うことも考えられる。例えば、「遊びの指導」において自然と触れ合って遊ぶ活動に取り組んだり、「生活単元学習」において生活上の課題として、ごみの分別やリサイクルなどについて学習に取り組んだりすることが挙げられる。その際は、児童生徒の知的障がいの状態

や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定することや、以下のような点に留意することが必要である。

- 生活に結びついた具体的な活動を学習の中心に据え、実的な状況下で指導すること。
- 児童生徒の興味・関心を考慮し、教材・教具を工夫するとともに、目的が達成しやすいように段階的な指導を行うなどして、児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導すること。
- できる限り児童生徒の成功体験を豊富にするとともに、自発的・自主的な活動を大切に、主体的な活動を促すように指導すること。
- 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるように工夫し、その活動を遂行できるよう指導すること。

3 道徳、特別活動及び総合的な学習の時間における指導

道徳、特別活動及び総合的な学習の時間における指導については、前述の小・中学校、高等学校の指導に準ずるが、特別支援学校においては、以下のことについても、留意する必要がある。

【道徳】

小学部では自然や動植物を愛し大切に作る心や感動する心などを育てるための自然体験活動、中学部では自然のすばらしさを味わうとともにそれを愛護しようとする気持ちを実感できる自然体験活動を通して、児童生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。

高等部では、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組み、社会の持続可能な発展の担い手として個人を育成することにつながるものであり、その点にも留意することが重要であるとされている。

【特別活動】

前述の小・中学校、高等学校に準ずるほか、以下のことについて留意する必要がある。

- 少人数からくる種々の制約を解消し、活発な集団活動が行われるようにする必要があること。
- 児童又は生徒の経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性をはぐくむために、集団活動を通して小学校の児童又は中学校の生徒、高等学校の生徒などと交流及び共同学習を行ったり、地域の人々などと活動を共にしたりする機会を積極的に設ける必要があること。その際、児童又は生徒の障がいの状態や特性等を考慮して、活動の種類や時期、実施方法等を適切に定めること。
- 知的障がいである児童生徒への指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、具体的に指導する必要があること。

【総合的な学習の時間】

総合的な学習の時間における環境教育の指導に当たっては、前述の小・中学校、高等学校に準ずるほか、以下のことについて留意する必要がある。

- 児童又は生徒の障がいの状態や発達段階等を十分考慮し、学習活動が効果的に行われるよう配慮すること。
- 体験活動に当たっては、安全と保健に留意するとともに、学習活動に応じて、小学校の児童又は中学校の生徒、高等学校の生徒などと交流及び共同学習を行うよう配慮すること。

また、総合的な学習の時間では、課題解決的な学習を展開することが考えられるが、環境に関する題材や教材を身近な生活の中から設定することで、児童生徒が自ら課題を発見し、体験的な学習を通して、情報を収集したり、整理したりしながら課題を解決していく能力を育てることができる。

第3節 指導上の留意事項

1 児童生徒の実態に即した指導

児童生徒の障がいの状況や発達段階等の一人一人の実態を的確に把握し、ねらいや学習内容、授業形態等を設定し、個別の指導計画に位置付けることが必要である。

2 効果的な学習集団の編成

個々のねらいを達成するためには効果的な学習集団を編成することが必要である。例えば、話し合い活動ができるようにねらいや課題の近い小集団を編成したり、学習内容によっては学部全体や全校で取り組んだりすることも考えられる。

3 題材、教材の工夫

題材の設定について次のようなことに配慮する必要がある。

- 児童生徒が興味・関心を持ちやすいよう、身近な題材、教材を取り上げる。
- 児童生徒が自分のこととして受け止めることができるよう、環境との直接的なかわりができる体験的な活動に取り組む。
- 児童生徒の理解をより深めるために、視覚的な情報として映像やインターネット等を利活用する。

4 学校図書館の活用

環境教育では、児童生徒自らが課題を発見し、積極的にその解決に向けた方法等を調べたり、その成果を発表したりするという課題解決型の学習の展開が可能である。その中で学校図書館を活用することができる考える。

5 地域とのつながり

地域とのつながりを持った活動の中で豊かな人間性や社会性を育てていくために、児童生徒の自立と社会参加を目指す特別支援学校において、地域の人々や地域の自然と触れ合うことなどはとても有意義である考える。

第4節 実践事例

宍道湖の環境について考えよう

高等部全学年

【ねらい】

- 地域の財産である斐伊川水系について学習し、郷土のことを知ることを通して、その環境を守る気持ちを育てる。
- 日頃、利用している松江しんじ湖温泉駅及び宍道湖湖岸の清掃活動をすることで環境保全のためにできることを実践する。また、地域を愛し、地域に貢献する心を育てる。

【活動計画】

- ①斐伊川神戸川治水事業（大橋川改修について）に関する出前授業（1時間）
- ②しんじ湖温泉駅及び宍道湖湖岸の清掃活動（2時間）

【活動内容の様子】

① 斐伊川神戸川治水事業（大橋川改修について）に関する出前授業

大橋川コミュニティーセンター長から過去の水害の様子や斐伊川神戸川治水事業、宍道湖の生物について教えて頂いた。生徒からは自分でも水害の備えをしたい、斐伊川をきれいにしたいなどの感想があった。



② 松江しんじ湖温泉駅および宍道湖湖岸の清掃活動

松江しんじ湖温泉駅及び宍道湖湖岸の清掃活動を行った。

駅では、駅構内や駅の外やトイレを清掃し駅の利用者や駅員の方に感謝の言葉をかけてもらい奉仕の気持ちが深まった。

宍道湖岸では、色々な種類のゴミがある現状に気づき、モラルの大切さも感じる事ができた。



【成果と課題】

（成果）

出前講座による講話については、資料中の言葉に配慮した視覚的な教材を準備して頂いたことで、生徒たちが理解しやすく、身近な地域の学習であることを実感できた。また、講師の先生が、斐伊川治水事業に携わっておられ、質問にも具体的に答えて頂くことができた。

松江しんじ湖温泉駅の清掃活動では、例年は実施をしていないトイレや売店内も清掃をして、駅員の方に感謝の言葉をかけて頂き、奉仕の気持ちが深まった。宍道湖岸の清掃活動では、予想外の多様なゴミが落ちていて宍道湖を汚染していることに気づくことができた。

（課題）

出前講座による講話については、模型を使っでの学習（大橋川コミュニティーセンター内に設置してある）や実地見学ができれば、さらに理解が深まったと考えられるが、時数の確保が難しく実施ができなかった。

清掃活動については、今年度は生徒の実情に合わせ、清掃範囲を拡大して実施することで成果があった。年度毎に生徒の人数や実態に応じて、清掃場所や清掃範囲を決める必要がある。

落ち葉で花を咲かせよう

高等部全学年

【ねらい】

- リサイクル肥料に関連した環境美化活動を通して、作業に向かう意欲や姿勢を高めるとともに、生徒たちの環境美化活動に対する意識を喚起する。
- 本学習を通して安来高校の生徒や地域の方々との繋がりを深める。

【単元構成】

- | | |
|-------------------------|--------|
| ①リサイクル肥料や循環型農業に関する出前授業 | (14時間) |
| ②安来市営運動公園での落ち葉拾いと腐葉土づくり | (8時間) |
| ③腐葉土を使った花植え | (2時間) |

【活動内容と様子】

安来地域で環境保護活動やその啓発活動に熱心に取り組んでおられるガイヤネットワークの代表者に依頼し、リサイクル肥料を使った循環型有機栽培について7回にわたって指導していただいた。

分教室から自転車で10分程度の場所にある広い畑で、まず、有機栽培のノウハウを教えていただいた。続いて有機肥料を使った土づくりにはじまり、サツマイモの苗植えや大根の種まき、収穫などの実践的な活動として継続して取り組んだ。毎回の作業時には、ガイヤネットワークの20代、30代のメンバーの方々も参加しておられ、分教室の生徒たちが様々な会話を交わしながら循環型農業や有機栽培について学ぶことができた。



また、前年度末の指導をもとに土づくりをした分教室の畑で、今年度はミニトマトを栽培した。ミニトマトは驚くほど勢い良く成長し、追肥を一度もすることなくたわわに実を付け、リサイクル肥料の効果を実践の中で学ぶことができた。また、校外にお借りしている畑で収穫した野菜は、作業学習の食品加工実習の中でスイートポテトや漬物作りに活用し、販売実習をとおして“有機栽培”ということを宣伝しながら販売した。販売実習時のお客様の様子から、“有機栽培”という安心・安全な食品を求めておられる人たちがたくさんおられるということを知ることができ、この点からもリサイクル肥料の良さを学ぶことができた。



た野菜は、作業学習の食品加工実習の中でスイートポテトや漬物作りに活用し、販売実習をとおして“有機栽培”ということを宣伝しながら販売した。販売実習時のお客様の様子から、“有機栽培”という安心・安全な食品を求めておられる人たちがたくさんおられるということを知ることができ、この点からもリサイクル肥料の良さを学ぶことができた。

“地域での環境美化活動”と“学校の畑で使う腐葉土づくり”を兼ねて安来市総合運動公園の落ち葉集めを行った。

運動公園では、例年落ち葉の処理に苦勞しておられ、集めた落ち葉を公園の隅に山積みしておいたところ、市民から苦情が寄せられた。一方、分教室では、有機栽培を意識した農産活動をしており、落ち葉を活用した堆肥づくりや地域の環境美化に取り組みたいと考えていた。この分教室の教育ニーズと、落ち葉の処理に頭を悩ませておられる運動公園側のニーズがうま



く噛み合った一挙両得の活動となった。自分たちが畑で活用する腐葉土の材料となる落ち葉集めが、同時に喜んでもらえる奉仕活動にもなるということで、単純な作業であったが生徒たちは、とても意欲的に取り組むことができた。袋詰めにして持ち帰った落ち葉は、作業学習の時間に分教室の畑横の堆積場に広げ、鶏糞を混ぜて積み上げ、発酵を促進させて堆肥づくりに利用した。

安来高校の美化委員と共同で学校周辺に飾るプランターへの花植え活動を行った。

花植えに使う苗は、分教室の生徒たちが作業学習や総合的な学習の時間を利用して育ててきたものを活用し、プランターに入れる土の一部には、分教室で作った腐葉土を使用した。交流美化活動の当日には、分教室の生徒代表が分教室で作った腐葉土の紹介も行った。活動には、両校合わせて約40名の生徒の参加があり和やかな雰囲気の中賑やかに花植えを行った。春にはサルビアやペチュニア、秋にはノースポールやデイジー、パンジーの苗を植え、生徒昇降



口や校門前に設置して、一年間をとおして学校周辺に花のある環境を維持した。

また、分教室単独の活動として、同じような方法で花植えをしたプランターを地域の公民館に持って行き、玄関等に飾ってもらった。プランターの側面には、「自然を大切にしよう」「私たちの町をきれいにしよう」等、生徒たちが考えて作ったステッカーを貼り付け、環境美化をアピールした。

【成果と課題】

（成 果）

今年度の各活動は、昨年度始めた取り組みを継続・発展させていくかたちで行ってきた。特に安来地域で環境保護活動に取り組んでおられるガイヤネットワークの協力を得て行った実践的な有機農法の学習では、昨年度から継続して取り組んだことにより、ミニトマトの栽培をとおしてリサイクル肥料の効果を体験的に実感することができた。

また、運動公園の落ち葉の利用では、一方で処分に困るものが、使い方によっては貴重な材料になることを実践的に学ぶことができた。落ち葉集め→堆肥づくり→交流花植え・公民館への配付という具体的活動の繋がりだけでなく、それらの活動を通して、地域の方々との新たな繋がりができたことは、安来分教室の生徒や今後の学習活動にとって非常に大きな財産となった。

（課 題）

このたびの一連の環境学習は、作業学習や生徒の自治活動の中で行った。授業本来のねらいと関連した活動であり無理なく実践できたが、その反面、環境保全そのものについて生徒が考えたり意識したりするには、難しい組み立てになってしまった。今後は、活動と関連させながら、環境に対する意識を高めるよう働きかけていきたい。

横田の地域をきれいにしよう

中学部全学年対象

【ねらい】

- 地域の清掃活動を通し、環境美化についての意識を高める。
- 学校間交流相手先中学校の生徒と一緒に清掃活動することで、自分たちの地域への関心を高める。
- 日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちを行動（清掃活動）で表す。

【活動計画】

- ①清掃活動に向けて準備をしよう （1時間）
- ②横田地域の清掃活動をしよう （1時間）

【活動内容の様子】

①清掃活動に向けての準備

実行委員会を両校（各校3名～4名）で立ち上げ、役割分担を行った。本校生徒は、市環境



衛生課への連絡（ゴミ袋の手配や回収のお願い）や道具等（火ばさみ、軍手、）の準備を行った。相手校は地域へのお知らせのチラシ（清掃活動を行うこと）を作成し、公民館、自治会等に配布した。全体では事前学習として活動の日程やグループ、コースの確認を行った。

②横田地域の清掃活動を行った。（全9グループ）

両校の生徒を9のグループに分け（1グループ約6名）、エリアを分担して清掃活動に入った。活動時間は約1時間。初めはゴミを拾い損ねる場面も多く見られたが、徐々にゴミが袋に増えてきたり、活動が続いてきたりするとグループ内で役割分担（袋を持つ人、火ばさみで拾う人）をし、熱心に取り組む姿があちこちで見られた。また地域の方から「何をしているの?」「お疲れさま」「ありがとだね」と言葉をかけられる場面もあった。活動に合わせて活動を発信するねらいで報道機関にも取材要請を行い、新聞社1社から取材を受け、生徒たちの活動を広く周囲に伝える機会となった。

（生徒の感想）

暑い中のゴミ拾いで、大変だったという感想が多かったが、一緒に清掃活動できて楽しかった、きれいになってうれしかった。ゴミが予想より多くて驚いたといった感想も聞かれた。



【成果と課題】

（成果）

- 相手校の生徒と一緒に活動したことで、互いに励まし合い、持続して活動することができた。
- 収集したゴミを見て、道路等に捨てられたゴミが多いことに気づいたり、きれいにしようという気持ちが感想等から聞かれたりした。

（課題）

- 本校の生徒は横田地域よりも圏域の他地域から通学してきている生徒が多く、地域への愛着がどうしても薄い。その意味で日々の学習の中で地域を意識した学習内容や地域とのつながりを持つことも大切である。
- 環境教育を主とした学習の実践が少ない。本校の生徒たちにどのように実践を進めるかが課題である。